

第5章

まとめ

第5章 まとめ

本マニュアルでは、発達障害者との相談の進め方やコツについて、WSSPの実践等を通じ、「相談の構造化」「支援ツールの整理」「支援者の相談スキルの振返り」等として取りまとめました。また、巻末資料では、相談で活用できる各種支援ツールの一部を紹介し、付録として発達障害者との相談においてよく遭遇する場面を取り上げ、支援者の対処行動に係る「対応のヒント集」として掲載しました。

発達障害者との相談は個別性が高く、支援者の相談スキルの向上には、目の前の発達障害者一人一人の特徴を的確に捉えて、相談の準備を行い、相談後の振返りとそれを踏まえた次回相談の準備を一回一回丁寧に行うことの積み重ねが必要です。本書は、このような支援者の日々の実践をサポートし、相談スキルの向上に資するため、相談の過程ごとにそのポイントについて詳述するとともに、新たに作成した支援ツール（支援ツール活用整理表、支援ツール関連図、相談スキルのチェックリスト）のほか、支援者の対処行動に係る「対応のヒント集」等を掲載したものです。

WSSPでは、第2章でも述べたように、本人の無意識に対して意図的に働きかけるような支援技法は用いていませんが、支援者と本人との関係においては、多少なりとも「転移」「逆転移」といった現象が生じ得るものと考えています。そのため、時に支援者は、本人からアグレッシブな感情が向けられることもあり、それによって支援者の感情が揺さぶられ、気分が落ち込むようなことがあります。そのようなとき、支援者は、いずれの感情も支援者個人に向けられたものや本人と支援者の関係性から生じたものではなく、相談のプロセスにおいては起こり得る感情であることを理解し、冷静に捉えなおしていくことが重要であることを付言したいと思います。

本マニュアルを一つの参考として、地域センター等各支援機関における発達障害者に対する支援スキルのさらなる向上が図られることを期待します。

